



環境活動報告書

Environmental Report

2022

Contents

1	ごあいさつ	2
2	事業概要	3
	-1 当社の事業概要	
	-2 シンシア品川R・Cセンター 事業概要	
	-3 シンシア横浜R・Cセンター 事業概要	
	-4 シンシア品川リサイクルセンター 事業概要	
3	環境マネジメントシステムについて	7
4	環境管理組織	8
5	環境パフォーマンス	9
	-1 活動目標の達成度(2021年度)	
	-2 活動目標の概要(2022年度)	
6	インプット・アウトプット(2021年度)	13
7	環境数値(2021年度)	14
8	主要な環境パフォーマンスの指標の推移	15
	-1 シンシア品川事業所	
	-2 シンシア横浜事業所 / 全社	
9	資格の取得	17
10	環境マネジメントシステム監査結果	18
11	環境教育	19
	-1 緊急事態対応訓練	
	-2 環境月間	
12	ステークホルダーとのコミュニケーション	21

平素は当社事業にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。
「環境活動報告書2022」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、「自然との共生」を企業理念とし、①R・C(資源循環)事業、②リサイクル事業、③環境整備／ビルメンテナンス事業の3つの事業において、環境への意識が高いお客様のニーズに的確なソリューションをもって対応させていただいています。

2022年も新型コロナウイルスの感染拡大が続いておりますが、一刻も早く収束することを祈願しています。当社は、お客様に安心していただけるように従業員には感染対策を徹底しています。当社を取り巻く事業環境においては、特に、産業廃棄物処理業は「国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務」と位置付けられ、国からも事業継続を要請されています。掛かる状況下にあつて、従業員の安全確保を第一に操業維持を図りながら、医療機関等から発生する感染性廃棄物を確実に処理する体制を確保しております。

当社は、1999年に環境マネジメントシステム(EMS)の認証を取得し、今年で23年を迎えます。廃棄物の適正処理はもちろんのこと、廃熱による発電、リサイクルルートの拡大、省資源の推進や温室効果ガスの排出抑制など、一つ一つの課題に真摯に取り組みながら、資源循環や地球温暖化対策という社会的課題に向き合ってきました。

環境活動報告書2022では、主に2021年度における当社の環境への取り組みをご報告させていただきます。是非ご一読いただき率直なご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

2022年8月



環境管理総括責任者 高林 武慈

シンシアは「自然との共生」を企業理念とし、「R・C(資源循環)事業」「リサイクル事業」「環境整備／ビルメンテナンス事業」の3つを柱に伸展し続けています。

R・C(資源循環)事業

R・C(資源循環)事業は、民間最大級の都市型廃棄物処理施設である「シンシア品川R・Cセンター(東京都品川区)」と「シンシア横浜R・Cセンター(横浜市金沢区)」を拠点に、多種多様な廃棄物処理を行っています。両施設は環境負荷を抑えながら廃棄物を処理し、同時にリサイクルも可能な設備が整っています。



リサイクル事業

リサイクル事業は、「シンシア品川リサイクルセンター」を拠点に全国へネットワークを展開して、情報通信機器を中心に増え続ける不用品や廃棄物をリサイクルしています。不用品から金属類や再生利用可能なものを最大限回収し、金属素材メーカーに売却(マテリアルリサイクル)しています。売却できないものは、シンシア品川R・Cセンターにて適正処理と再資源化を行っています。

環境整備／ビルメンテナンス事業

環境整備／ビルメンテナンス事業は、企業の職場環境を整備するビルメンテナンス業務と、これに伴う不用品や廃棄物の回収とリサイクル、そのマネジメント、また廃棄物管理業務全体のアドバイスやサポート業務(環境管理業務のサポート)を行っています。



シンシア品川R・Cセンターは、東京都品川区という首都圏の中心に位置しています。私達はここで、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物を焼却・溶融処理しています。溶融炉は焼却後の灰（焼却灰）を高温で溶かし、溶融スラグとすることで、埋立処分されることの多かった焼却灰を建設資材として再資源化するマテリアルリサイクルが可能になりました。加えて焼却廃熱を利用して発電するサーマルリサイクルも行い、受け入れた廃棄物を可能な限り再資源化しています。



受入可能な廃棄物の種類

事業系一般廃棄物 普通ごみ

産業廃棄物 燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、政令13号指定廃棄物、動物系固形不要物

特別管理産業廃棄物 廃油、廃酸、廃アルカリ、特定有害産業廃棄物、感染性産業廃棄物

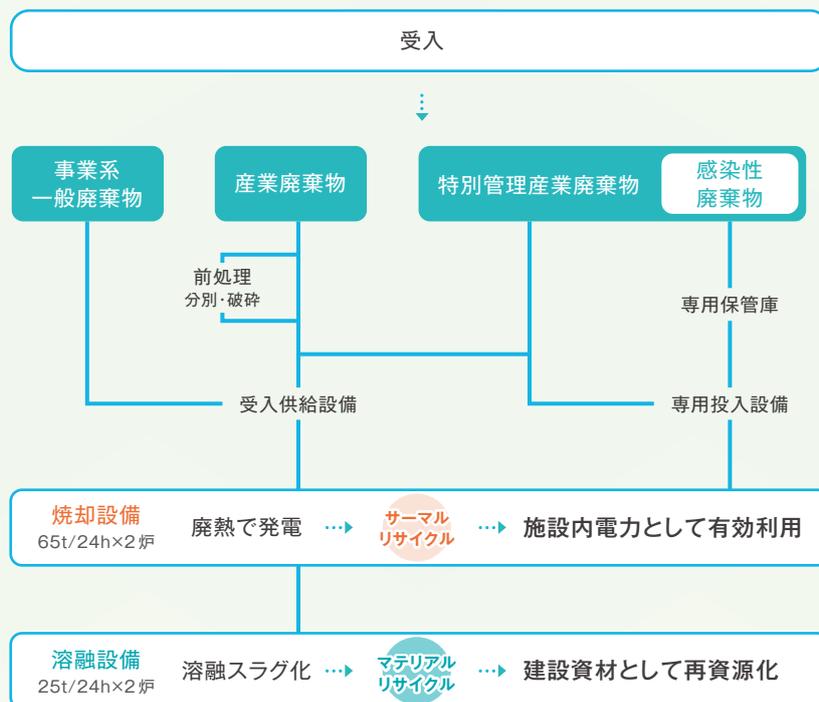
処理能力

焼却* 130t/24h (65t/24h×2炉)

溶融 50t/24h (25t/24h×2炉)

* 130t/24hは一般廃棄物、特別管理産業廃棄物の処理能力であり、産業廃棄物の処理能力については、142t/24h(71t/24h×2炉)となっています。

シンシア品川R・Cセンター 処理工程



シンシア横浜R・Cセンターは、2009年に横浜市金沢区に誕生しました。厳しい環境規制をクリアし、さまざまな産業廃棄物を適正に処理した上で、廃熱発電によるサーマルリサイクルを行っています。発電により生じた電力は、施設内で活用、余剰電力は売電しています。



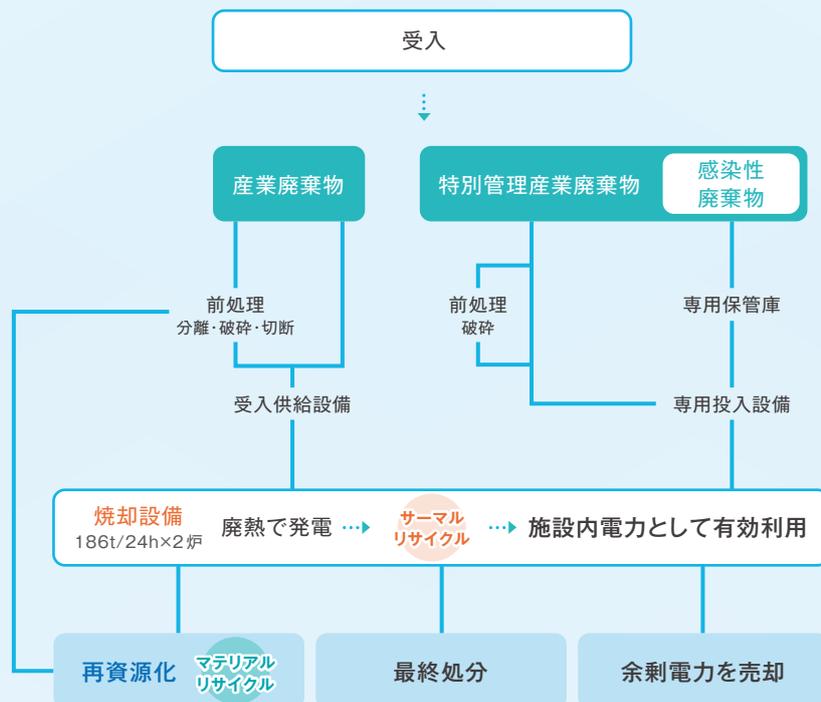
受入可能な廃棄物の種類

- 産業廃棄物** 燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、動物系固形不要物
- 特別管理産業廃棄物** 廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）、感染性産業廃棄物

処理能力

- 焼却** 372t/24h (186t/24h×2炉)
- 破碎** 80t/9h、3.6t/9h (1.8t/9h×2基)
- 切断** 11t/9h
- 分離** 22.16t/9h

シンシア横浜R・Cセンター 処理工程



シンシア品川リサイクルセンターの原点は、江戸の昔、江戸中からゴミを集め、工夫を凝らし、一切捨てることなく再生利用したくず屋にあります。私達はここで、搬入された不用品や廃棄品を、丁寧な解体作業とプロの判断で選別します。その後、破碎機による「破碎」及び大型プレス機による「圧縮」を行い、金属素材メーカー等に売却し、マテリアルリサイクルを行っています。



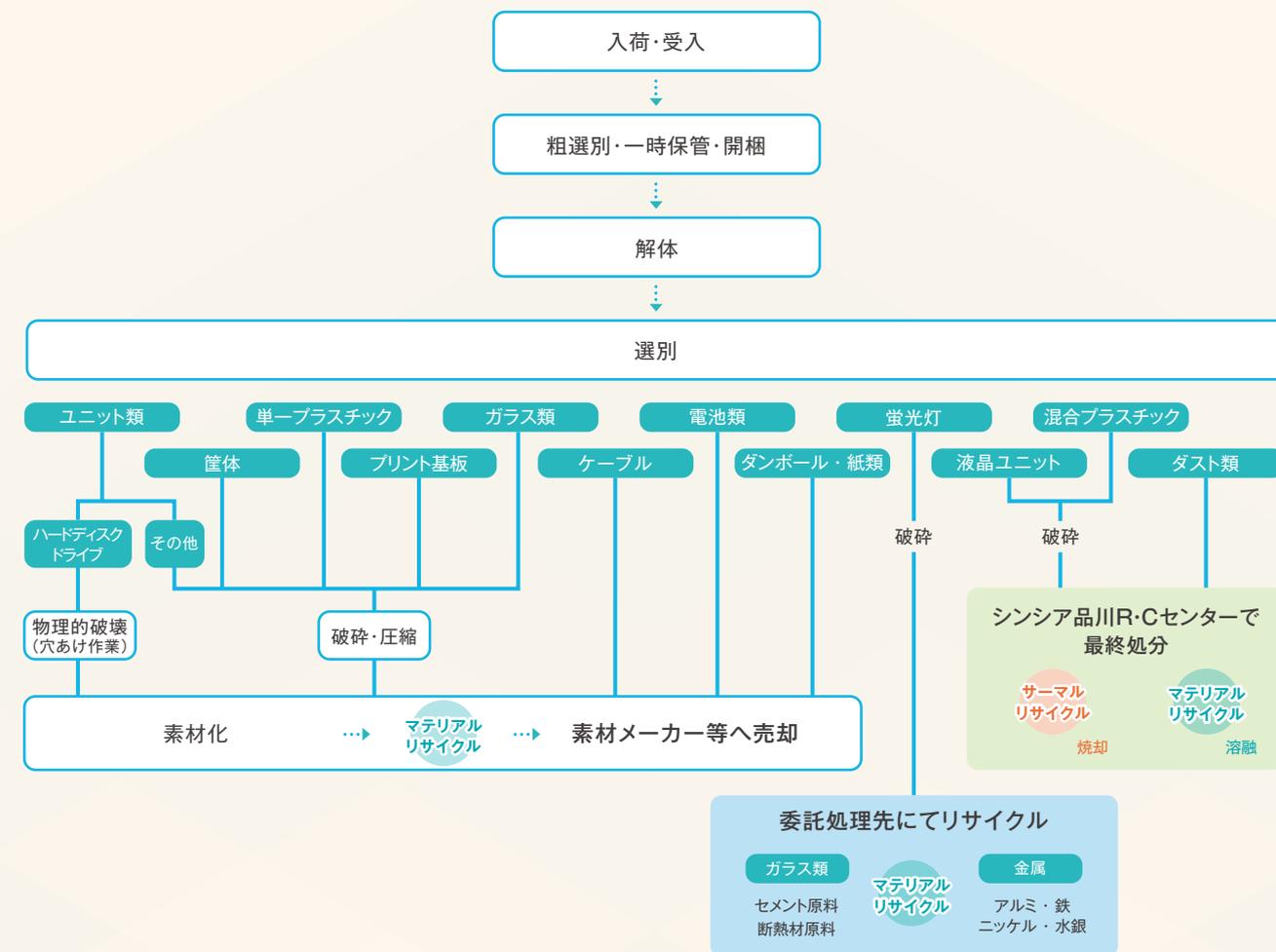
受入可能な廃棄物の種類

産業廃棄物 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃蛍光灯を含む）

処理能力

破碎	4.8t/8h
破碎（廃蛍光灯）	16,000本/8h
圧縮	42.2t/8h

シンシア品川リサイクルセンター 処理工程



現在ほど環境に対する意識があまり高くなかった1999年当時、当社は焼却・溶融処理施設として、日本で初めてISO14001(環境マネジメントシステム:EMS)の認証を取得し、環境事業者として、高い意識を持って環境に対して真摯に向き合い、積極的に環境保全に取り組んでまいりました。

環境方針

1. 廃棄物の適正処理・再資源化及び環境の美化を推進します。
2. 関連法令、地域社会との協定を順守し、環境汚染の未然防止に努めます。
3. 事業を取り巻く環境の変化に応じて活動目標を見直し、環境管理システムを継続的に改善することにより、環境負荷を低減します。
4. 省資源・省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出削減に努めます。
5. 品川事業所、横浜事業所及び本社で働く一人ひとりが、環境に対する意識の向上に努めます。
6. この環境方針は、一般にも公開します。

2017年4月1日
株式会社 シンシア
環境管理総括責任者 高林武慈

環境マネジメントシステム認証取得の経緯(1999年~2021年)

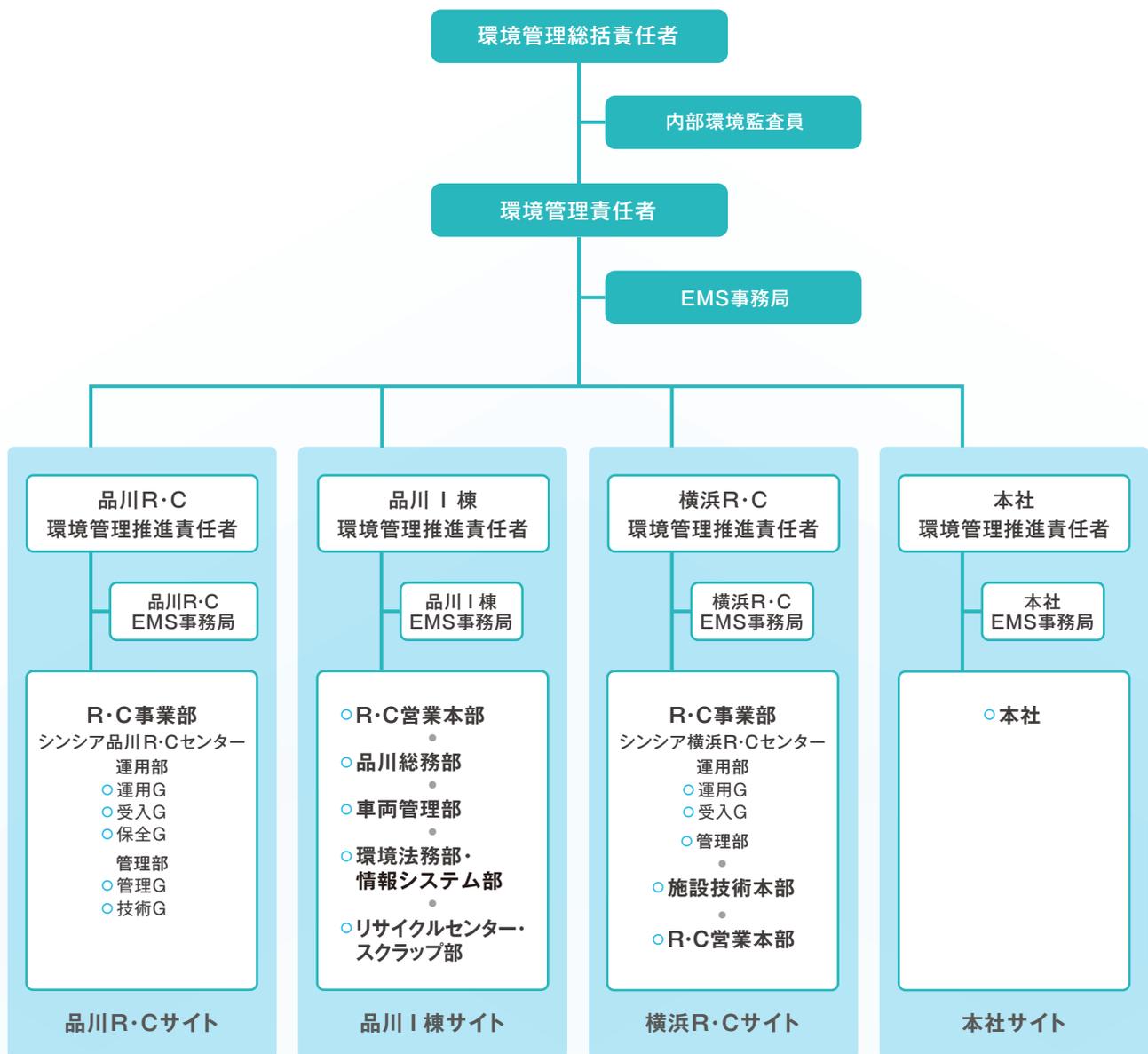
- 1999年 6月 R・Cセンター ISO14001 認証取得を目指しキックオフ
9月 認証取得に備え事前審査実行
11月 ISO14001登録審査実施
R・Cセンター ISO14001認証取得
- 2001年 12月 登録範囲にR・C営業部を追加
R・C事業本部へ登録範囲拡大
- 2007年 9月 登録範囲にリサイクルセンター、スタッフ部門を追加
シンシア品川へ登録範囲拡大
- 2010年 10月 平成22年度「日本規格協会マネジメントシステム永年登録賞」
(ISO14001)を(一財)日本規格協会殿より受賞
- 2011年 11月 第4回更新審査登録範囲にシンシア横浜事業所を追加
- 2012年 10月 登録範囲に本社を追加
- 2017年 9月 第6回更新審査(移行審査含む)
11月 ISO14001:2015へ移行を完了
- 2020年 9月 第7回更新審査
- 2021年 9月 第7-1回定期維持審査

※ 組織名称は全て当時の名称です。



当社は、事業に関連する各種法令の順守やステークホルダーの要求を満たすため、ISO14001の規格に沿った環境管理組織を構築しています。定期的に各種法令の順守状況やステークホルダーの要求を満たしているかを確認し、構築した環境マネジメントシステムがISO14001の規格に適合しているか、内部監査を実施しています。

環境管理組織図



○ 活動単位

2021年度の各サイトの活動目標はすべて達成することができました。前年度の活動内容から大きな変更は行わず、パフォーマンスの継続と更なる改善の推進を重視しました。

品川R・Cサイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	運用G 受入G 技術G	不具合物の搬入の抑制	展開検査又は燃焼試験： 156件以上	158件	達成
2	運用G 受入G 保全G	設備の安定的な運用の ための提案活動	月毎の推進項目の実施	計画通り毎月実施	達成

品川I棟サイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	リサイクルセンター スクラップ部	副産物の付加価値を高める 提案活動	提案件数：6件以上	6件	達成
2	車両管理部	運搬業務効率の改善提案と 営業戦略に有益な情報提供	改善提案又は提供した情報の 採用件数：計5件以上	21件	達成
3	R・C営業本部	リサイクルレベル 向上案件の獲得	リサイクルレベルが向上した 新規受注件数： 前年度実績比90%以上	109%	達成

横浜R・Cサイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	運用G	排ガス処理で使用する粉体薬品の削減	粉体薬品の使用量： 3,476.7kg/日・炉 以下	3,322.1kg/日・炉	達成
2	管理部	飛灰削減のための搬入廃棄物の性状確認及び是正対応	・性状検査：320件以上 ・展開検査：28件以上	・性状検査：351件 ・展開検査：38件	達成
3	施設技術本部	電力量の把握と照明設備の省エネ活動	・毎月使用電力量の把握 ・毎月の省エネ推進活動の推進	・使用電力量の把握：毎月実施 ・蛍光灯(407灯)をLED化し、省エネ化を推進	達成

本社サイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	本社	消耗品の使用量削減	5拠点での消耗品使用量低減策 (1拠点は実績値の把握のみ)	・4拠点で前年度比で 使用量削減 ・1拠点では実績値把握	達成
2		業務見直し・効率化による残業時間の抑制	本社勤務者年間残業時間： 2019年度比30%以上抑制 (1人あたり平均又は総残業時間)	総残業時間：38.6%減	達成

2022年度の各サイトの活動目標は、以下の通りです。目標達成へ向け活動して参ります。

品川R・Cサイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	運用G 受入G 技術G	不具合物の搬入の抑制	展開検査又は燃焼試験：年156件以上
2	運用G 受入G 保全G	設備の安定的な運用のための提案活動	月毎の推進項目の実施

品川I棟サイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	リサイクルセンター スクラップ部	付加価値を高める パーツリユース品の回収	・メモリー：240kg/年以上 ・CPU：60kg/年以上
2	車両管理部	エコドライブの推進	ドライブレコーダーの「急ブレーキ」「急発進」 「急ハンドル」の危険運転検知が10件/月以下の 車両が5台以上
3	R・C営業本部	リサイクルレベル向上案件の獲得	新規獲得件数：前年度実績件数の90%以上

横浜R・Cサイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	運用G	排ガス処理で使用する粉体薬品の削減	粉体薬品の使用量：3,538.4kg/日・炉以下
2	管理部	飛灰削減のための搬入廃棄物の性状確認及び是正対応	<ul style="list-style-type: none"> 性状検査実施件数：年320件以上 展開検査実施件数：年28件以上
3	施設技術本部	電力量の把握と照明設備の省エネ活動	<ul style="list-style-type: none"> 使用電力量の把握 省エネ化推進項目の実施

本社サイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	本社	消耗品の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 消耗品の使用量削減策を推進：コロナ前に比べ使用量削減対象拠点拡大の検討、トライアル等実施
2		業務見直し・効率化による残業時間の抑制	<ul style="list-style-type: none"> 本社勤務者年間残業時間：2021年度実績以下に抑制 毎月の推進項目を実施

当社は、事業活動に伴う環境負荷を把握し、廃棄物の適正な処理はもちろんのこと、省エネルギー、廃棄物のリサイクル等、環境負荷の軽減につながる取り組みを継続して実施しております。

以下は2021年度の実績値です。

INPUT



シンシア品川R-Cセンター



品川リサイクルセンター

シンシア品川事業所

一般廃棄物受入量：	3,502 t
産業廃棄物受入量：	25,234 t
特管廃棄物受入量：	12,651 t
電力消費量：	7,866 MWh
灯油消費量：	573 KL



シンシア横浜R-Cセンター

シンシア横浜事業所

産業廃棄物受入量：	73,990 t
特管廃棄物受入量：	6,658 t
電力消費量：	15,220 MWh
都市ガス消費量：	137,806 m ³

事業活動

OUTPUT

シンシア品川事業所

廃棄物の 搬出量

ばいじん：	3,358 t
廃蛍光ランプ破砕物：	8 t
安定型混合廃棄物：	166 t

CO₂の 排出量

40,032 t-CO₂

有価物の 売却量

溶融スラグ：	2,108 t
古紙：	77 t
金属：	2,073 t
プラスチック：	119 t

シンシア横浜事業所

廃棄物の 搬出量

ばいじん：	6,690 t
燃えがら：	4,692 t

CO₂の 排出量

167,312 t-CO₂

廃熱発電に よる売電量

26,855 MWh

廃棄物を焼却する際に発生する硫黄酸化物や窒素酸化物、塩化水素等の有害ガスは、排ガス処理設備にてクリーンなガスに処理した後に大気に放出しています。排ガス処理が適切に行われているか定期的に測定（分析業者に委託）しています。測定結果については基準値を下回っていることを確認しています。

シンシア品川R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果					
				4月	6月	9月	10月	12月	3月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.3未満	0.3未満	0.5	0.4未満	0.4	0.5未満
	窒素酸化物	ppm	70	37	33	38	43	36	37
	塩化水素	ppm	20	1	1	1	2	1	1未満
	ダイオキシソ類	ng-TEQ/m ³	1	—	0.0015	—	—	—	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.4未満	0.4未満	0.6	0.4未満	0.3未満	0.3未満
	窒素酸化物	ppm	70	39	29	23	36	40	41
	塩化水素	ppm	20	1未満	1	1未満	1	1未満	1未満
	ダイオキシソ類	ng-TEQ/m ³	1	—	0.0019	—	—	—	—
溶融1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.4	0.5	0.6未満	0.4未満	0.4未満	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	75	19	27	18	20	33	19
	塩化水素	ppm	20	1未満	2未満	3	1未満	1未満	1未満
	ダイオキシソ類	ng-TEQ/m ³	1	—	0.018	—	—	—	—
溶融2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	*2					
	硫黄酸化物	ppm	20						
	窒素酸化物	ppm	75						
	塩化水素	ppm	20						
	ダイオキシソ類	ng-TEQ/m ³	1						

*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。 *2 停止中のため測定なし。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし

シンシア横浜R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果					
				5月	6月	8月	10月	12月	2月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001未満	0.001未満	0.006	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.8	0.5未満	0.5	0.6	3.1	1.2
	窒素酸化物	ppm	45	19	26	29	16	19	23
	塩化水素	ppm	20	6	4	7	6	16	9
	ダイオキシソ類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	0.00022	—	0.00038	—	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	*2	0.001未満	0.002	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20		2.5	0.8	1.1	0.5未満	0.6
	窒素酸化物	ppm	45		23	21	17	18	16
	塩化水素	ppm	20		6	1未満	11	6未満	8
	ダイオキシソ類	ng-TEQ/m ³	0.1	0.0014	—	0.0040	—	—	

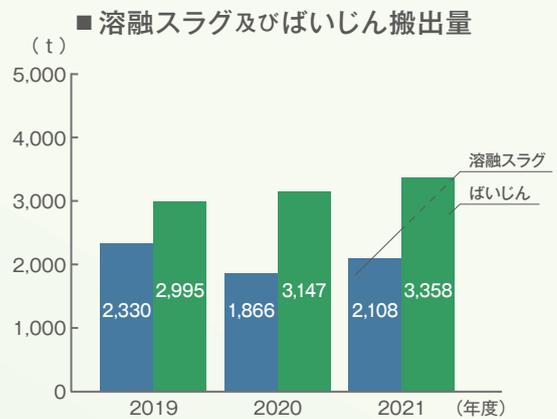
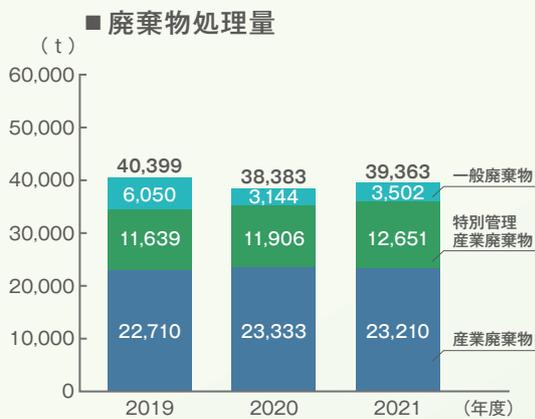
*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。 *2 停止中のため測定なし。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし

受け入れた廃棄物は適正に処理し、できる限り再資源化することは言うまでもありません。また、さらなる環境負荷の低減を目指して、主要な環境パフォーマンスの指標を把握しながら、資源やエネルギーの無駄を無くす取り組みを推進しています。

シンシア品川事業所 (2019~2021年度)

シンシア品川R・Cセンター

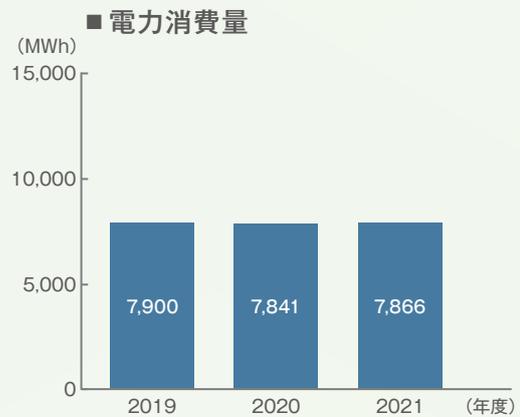


11,639

シンシア品川リサイクルセンター

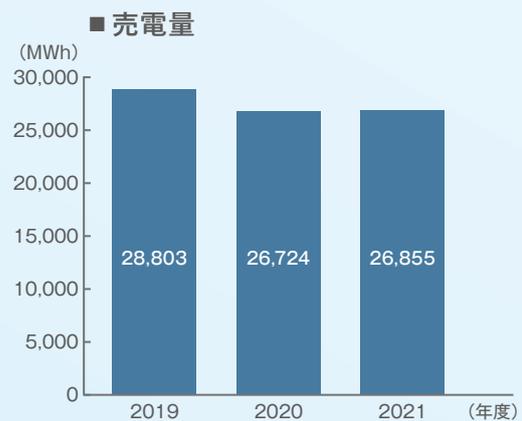
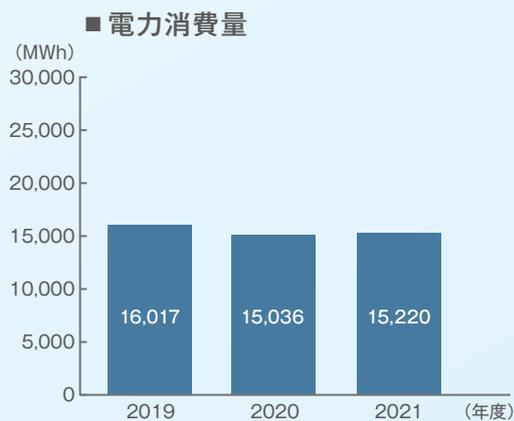


シンシア品川事業所全体

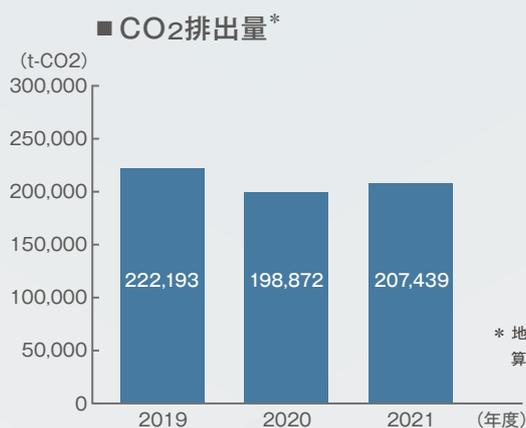


シンシア横浜事業所 (2019~2021年度)

シンシア横浜R・Cセンター



全社 (2019~2021年度)



* 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算定した排出量です。

環境負荷低減のための確かな技術の確証として、資格の取得や外部講習会への参加を積極的に行っています。講習会や、資格取得時に得た知識と技術は、日々の業務に活かされ、廃棄物の適正処理と環境負荷低減に役立っています。取得した資格とその取得者数については、下記の通りです。

資格名称	取得者数	資格名称	取得者数
産業廃棄物焼却施設技術管理士	31名	危険物取扱者(甲種)	3名
ごみ処理施設技術管理士	16名	危険物取扱者(乙種)	68名
産業廃棄物最終処分場技術管理士	4名	衛生管理者	14名
破砕・リサイクル施設技術管理士	10名	酸素欠乏危険作業主任者	63名
ダイオキシン類特別技術管理士	5名	クレーン運転業務特別教育修了者	84名
環境物質管理特別技術管理士	3名	有機溶剤作業主任者	29名
特別管理産業廃棄物管理責任者	14名	電気主任技術者	3名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)収集運搬業講習修了者	26名	電気工事士	15名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処分業講習修了者	33名	ボイラー・タービン主任技術者	19名
PCB収集運搬作業従事者講習修了者	11名	エネルギー管理士	3名
特定化学物質等作業主任者	40名	消防設備士	7名
特級ボイラー技士	2名	高圧ガス冷凍機械製造保安責任者	4名
一級、二級ボイラー技士	57名	環境カウンセラー(事業者部門)	2名
ボイラー整備士	9名	建築物環境衛生管理技術者	4名
公害防止管理者(大気関係)	8名	ビルクリーニング技能士	3名
公害防止管理者(水質関係)	5名	解体工事施工技士	5名
公害防止管理者(騒音)	3名	1級土木施工管理士	2名
公害防止管理者(振動)	1名	1級造園施工管理士	1名
公害防止管理者(ダイオキシン類)	1名	冷媒回収技術者	7名
東京都公害防止管理者	5名	技術士(衛生工学部門)	1名

2022年6月現在

内部環境監査（2021年度）

環境マネジメントシステムを確実にかつ効率的に推進するため、部門間の相互監査を実施し、ISO14001の要求事項への適合性の確認及び、取り組みに対する評価や指摘・改善提案などを行っています。

2021年度は、新型コロナウイルスの感染予防対策を取りながらの実施となりました。証拠書類やヒヤリング方法を工夫することにより、環境パフォーマンスへつながる改善事項を挙げることができました。監査員教育においても教育用動画を活用し、効率的に教育を実施しました。

事業所	実施月	指摘事項	改善事項
横浜事業所	10月～11月	0件	3件
品川事業所	10月～11月	0件	6件
本社	2022年度に実施予定		

外部認証機関による審査（2021年度）

外部認証機関による定期維持審査（年1回）と更新審査（3年に1回）を受審しています。2021年度はシンシア品川事業所とシンシア横浜事業所について定期維持審査を受審しました。不適合および改善事項の提案を含めて審査による指摘事項はなく終了しました。



品川事業所の審査



横浜事業所の審査

当社では従業員の経験に応じて、資格の取得や外部講習会への参加、社内教育等により環境教育を実施しています。

【緊急事態対応訓練】 シンシア品川事業所、シンシア横浜事業所では緊急事態を想定し、定期的に緊急事態対応訓練を行っています。2021年度に実施した訓練の一部をご紹介します。

液状廃棄物の保管タンク・供給配管からの漏洩対応訓練

漏洩物の拡散を防止し回収するための機材（土嚢、吸着マット等、水中ポンプ等）の保管場所と使用要領を確認し、漏洩箇所に応じた供給ポンプの停止操作、バルブ操作を確認しました。

また、設備を適切に維持し、故障による漏洩を未然に防ぐことが重要であるため、日常点検でのチェックポイントを確認しました。



ポンプ・バルブの操作確認



漏洩物回収機材の確認

ピット火災対応訓練

ピット内で火災が発生した想定で、発生の連絡から、避難指示、搬入車両の誘導、放水銃を使った消火活動を訓練し、鎮火確認後の業務再開までの手順を確認しました。訓練後も、課題の検出や意見交換を行い、改善点を検出しました。



放水銃による消火



搬入車両の誘導

【環境月間】従業員の環境意識向上を目的として、例年6月と11月に「環境月間」を設定し、他部門の業務内容を理解するためのイベントや勉強会を実施しています。2021年度は、一部新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止を余儀なくされたイベントもありましたが、年間計6件実施しました。

2021年度環境月間実施イベント

開催月	主催	活動名	参加者数
6月	横浜総務部	通勤経路のごみ拾い活動	計27名参加
11月	横浜総務部	通勤経路のごみ拾い活動	計45名参加
	品川総務部	大井ふ頭緑道公園の清掃活動	
	車両管理部	日野自動車様ご協力による衝突軽減ブレーキの実演	
	品川運用G	焼却溶融設備見学	
	リサイクルセンター	「混ぜればごみ、分ければ資源」～リサイクルについて知ろう～	

衝突軽減ブレーキの実演イベント

車両管理部では、日野自動車様からデモンストレーターをお招きし、衝突軽減ブレーキや誤発進抑制装置の試乗体験を行いました。



試乗体験の様子

ごみ拾い活動

シンシア横浜事業所では、並木北駅及び並木中央駅から横浜事業所まで従業員の通勤路のごみ拾い活動を年2回（6月、11月）行っています。近隣の環境美化はもとより、道路を通行する方々が気持ちよく利用できるように、これからも活動を続けてまいります。

シンシア品川事業所では、例年近隣の公園でごみ拾い活動を年2回（6月、11月）行っていますが、2021年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から6月の実施は自粛いたしました。



横浜（通勤経路のごみ拾い）



品川（公園の清掃活動）

地域住民の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに対し、常時施設を公開しております。

また、管轄行政に対し、各種法令に基づく報告や必要に応じて随時連絡や相談等を行い、法令順守や行政とのコミュニケーションを図っています。

施設見学・現地確認の対応について

当社の施設に対する施設見学や現地確認を随時お受けしております。施設の模型を使って処理・リサイクルのプロセスやサービス内容を説明した後、各設備の運転や監視を行っている制御室、廃棄物の焼却炉への投入や廃棄物が焼却されている焼却炉内、パソコンや情報通信機器の解体の様子等をご覧いただきました。2021年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から例年より縮小しましたが、排出事業者様等361名の方々にお越しいただきました。



管轄行政による確認

管轄行政より定期的に立入検査を受け、適正な施設の維持管理ができるようご指導いただいています。



◀ シンシア品川R・Cセンター
東京都環境局殿の立入検査の様子



シンシア横浜R・Cセンター
横浜市資源循環局殿の立入検査の様子 ▶





〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目26番3号 大森ベルポートD館6F
TEL 03-3764-5300(代表) FAX 03-3764-5347

お問い合わせはinfo@sincerehq.comへ

株式会社シンシア 環境活動報告書2022 発行日:2022年8月 発行者:EMS事務局
環境活動報告書の無断転載を禁じます。